
ハリーポッターと燃える炎の元素

ユー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハリーポッターと燃える炎のエレメント

【Nコード】

N1636BA

【作者名】

ユ一

【あらすじ】

魔法戦隊マジレンジャーとして地底冥府インフェルシアと戦った小津魁は魔法使いとしてさらに成長するためにホグワーツ魔法魔術学校に魔法留学しさらなる魔法使いとしての技術と経験を磨いていた。

ハリー目線でのお話です。

(反響が良ければ連載の続編を書きます)

ホグワーツに留学生が来た……それは遠い、日本からの留学生で名を小津魁と名乗った。

本当は年の9月1日時点で11歳である魔女や魔法使いに入学資格が与えられるホグワーツだが彼は特別措置の留学生として特別に認められたらしい。

そして魁は僕らと同じグリフィンドールに配属され僕とロンのルームメイトになった。

魁とはどこか気があった。

暫くすると僕達は仲良くなりいつもロンとハーマイオニーと魁で行動するようになった。

普段の魁はクールに振舞おうとしているものの実際は明るく正義感の強い熱血漢の性格だという事をみんな知っている。

そして魁の魔法使いとしての能力はグリフィンドール……いやホグワーツ内でもトップレベルかもしれないが居眠りはするし授業態度はよろしくない。

そんな魁だが何故か自分の過去を話したがない。

いつも僕達が聞いても「言うほどの過去じゃない」とだけ答えが返ってくる。

でもヴォルデモートを倒すためにどうしても知りたい……どこであの見たことのない魔法を覚えたのか。

今日は都合よく4人しかおらず場所も森の中と言う事で誰もいない。これなら魁も話してくれるかもしれない。

そこで僕とロンとハーマイオニーは魁を問い詰める事にした。

「そろそろ魁の事を教えてくれないかな？」

「言うほどの過去なんかないよ」

やはりいつもどおりの答え……だけどここで引きさがることはできない。

「何でいつも教えてくれないんだ」

「私達友達でしょ？そんなに言いたくない過去があるの？」

「ハリーやハーマイオニーの言うとおりだよ」

魁は何か考え事をしているような真面目な顔つきになっている。おそらく過去のことを話そうか話すまいか悩んでいると推測できる。しかし、こんな時に限って吸魂鬼が現れる。

「エクスペクト・パトローナム！」

ハリーが守護霊を呼び寄せる魔法で対抗するが如何せん数が多すぎる。

こうなったら、逃げるしかない。

「逃げようー！」

ハリー、ロン、ハーマイオニーの三人は逃げようとしたが魁だけは逃げようとしなない。

「魁！早く逃げるぞー！」

魁はいつにもまして真剣な表情で僕達に語りかけた。

「俺の過去を知りたいと言ったね？見せてあげるよ……俺の過去を

……」

魁は携帯電話のようなものを取り出しこっぴど叫んだ。

「魔法変身！マジマジマジロー！」

すると魁の体が赤いスーツに包まれた。

「燃える炎のエレメント！赤の魔法使いマジレット！」

これが彼の過去……言葉を失う僕達。

魁はいつたい何者なのか……彼の過去とは。

僕達はさらに興味がわいた。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1636ba/>

ハリーポッターと燃える炎のエレメント

2012年1月4日02時51分発行